

ワークショップ討議に対する質的評価の有効性に関する研究

山口大学大学院 学生会員 ○梅田 駿

山口大学大学院 学生会員 長曾我部 まどか

山口大学大学院 正会員 榊原 弘之

1. 序論 近年、地域計画への住民意見の反映が大きなテーマとなっており、住民参加型ワークショップ(以下 WS)が数多く実施されている。WS 討議は展開が比較的自由であるため、ファシリテーションにより、効果的に WS 討議を運営することが必要となっている。本研究では、「合意志向」の WS と「発見志向」の WS を比較し、性質を解明することによって、運営方法の検証を行う。

2. 分析手法

2.1 分析概要 本研究では、発話データと記述データを WS 討議の評価対象とする。発話データとは、WS 参加者の発言を録音した議事録中の名詞語句の頻度データを意味する。記述データとは、KJ 法による意見集約結果中の名詞語句のリストである。

2.2 社会的受容性 本研究では、社会的受容性を、「WS で提案された意見が社会的支持を得る可能性」に関する評価基準であると定義する。また、本研究では上述のように定義された社会的受容性を、WS 討議における参加者のアイデアや意見の、社会的文脈との類似度を明らかにする。社会的文脈とは、ある言葉や言説が共有される文化的・社会的背景を指す。本研究では社会的文脈の根拠として新聞記事を用いる。社会的受容性の指標とする Jaccard 係数の定義式を(1)に示す。

$$\text{Jaccard 係数} = \frac{\text{「語句 A」かつ「語句 B」を含む記事数}}{\text{「語句 A」または「語句 B」を含む記事数}} \quad (1)$$

WS 討議において Jaccard 係数が高いテーマは、社会的支持を得られやすいと予想される。

2.3 採択率と文脈保持率 採択率とは、計画プロセスの観点で討議が有益かどうかを示す指標である。(2)式によって定義される。また、本研究では、文脈保持率という指標も用いる。これは、(3)式によって定義される。

$$\text{テーマ i の採択率} = \frac{\text{計画案とテーマ i の両方に存在する名詞語句数}}{\text{WS 意見集約結果中のテーマ i の名詞語句数}} \quad (2)$$

話題 j の文脈保持率

$$= \frac{\text{今回の WS の話題と話題 j の両方に存在する名詞語句数}}{\text{話題 j の名詞語句数}} \quad (3)$$

3. 宇部 WS と新山口 WS の比較

3.1 宇部 WS の概要 宇部 WS は 2010 年に開催され、テーマは宇部市の交通であった。WS の特徴として、各グループのメンバーを固定し、全ての回において同一のメンバーで討議が行われた点と、グループごとに討議の主題が異なる点が挙げられる。これは、メンバー間で討議を深め、主題に対する共通認識を強めるためである。

3.2 新山口 WS の概要 新山口 WS は 2012 年に実施され、駅前広場の整備や運営の在り方について議論している。宇部 WS と比較した場合の特徴として、各グループのメンバーを固定せず、全ての回において、討議は異なるメンバーによって行われたこと、ワールドカフェ形式で、多くの参加者と交流し、多様な意見を把握することを目指した点が挙げられる。

3.3 分析結果 宇部 WS と新山口 WS の記述データにおける社会的受容性と採択率の関係性を図 1、図 2 に示す。

図 1 は、宇部 WS における記述データの結果を示している。各点はテーマを表している。各テーマは複数の名詞語句によって構成されており、それらの組み合わせによって Jaccard 係数が決定される。横軸は平均 Jaccard 係数を示す。また、縦軸は採択率を示す。平均 Jaccard 係数と採択率の相関係数は、第 2 回ワークショップでは 5%有意となった ($R=0.500$)。また、第 3 回ワークショップでは、1%有意となった ($R=0.775$)。つまり、宇部 WS では、平均 Jaccard 係数が高いテーマは、採択率が高い傾向が示された。

図 2 は、新山口 WS における記述データの結果を示している。第 2 回ワークショップでは、採択率と平均 Jaccard 係数の相関に有意性は認められなかった ($R=0.016$)。第 3 回ワークショップでは、5%有意となった ($R=0.431$)。このことから、新山口 WS では、両者に強い相関は認められず、平均 Jaccard 係数が高

ければ採択率も高いとは言えない。また、宇部 WS の結果と異なる点として、第 2 象限にいくつかのテーマがプロットされていることが挙げられる。すなわち、平均 Jaccard 係数が低く、社会的文脈との類似性の少ない独自性の高いテーマも採択されている。これより、新山口 WS は、独自性や直観的発想を重要視しているのではないかと考えられる。

図 1、図 2 の考察によって、宇部 WS では採択率と社会的受容性との間の正の相関が強いこと、また、新山口 WS ではその相関が弱いことがわかった。宇部 WS では、回を重ねるごとに両者の相関が強くなっていった。このことから、宇部 WS は参加者の合意形成を志向する WS であると解釈できる。また、新山口 WS では、社会的受容性が低いにも関わらず反映率が高いテーマが複数存在した。新山口 WS は参加者たちの独創的な意見の発見を志向する WS であったと解釈できる。各テーマの詳細は発表時に譲る。

4. 記述データと発話データの比較

4.1 分析結果 本節では、宇部 WS の全 5 グループのうち、グループ 2 の文脈保持率を分析した。

図 3 はグループ 2 の記述データにおける文脈保持率を示している。縦軸は文脈保持率の軸である。横軸は各テーマの文脈保持率を降順に並べたものである。第 2 回で出現する語句は第 3 回でも出現するが、第 3 回で出現した語句は第 4 回ではほとんど出現しないことがわかる。この結果について、2 つの可能性が考えられる。1 つ目は、第 3 回と第 4 回で討議の話題が大幅に変化した可能性である。もう 1 つは、第 3 回と第 4 回の間で語句の言い換えが行われた可能性である。そこで、図 4 では発話データにおける文脈保持率を示す。第 2 回と第 3 回の間の文脈保持率の差は、記述データより小さいことがわかる。これより、参加者たちの間で討議の話題が変化した可能性は考えづらく、語句の言い換えが行われた可能性が強まったと言える。

謝辞：本研究は、科学研究費補助金・基盤研究(C)(課題番号: 23560625)の補助を受けて行った研究の成果を含んでいます。また、山口大学内田文雄教授には、新山口 WS の運営に関するヒアリングにご協力頂きました。ここに記して謝意を示します。

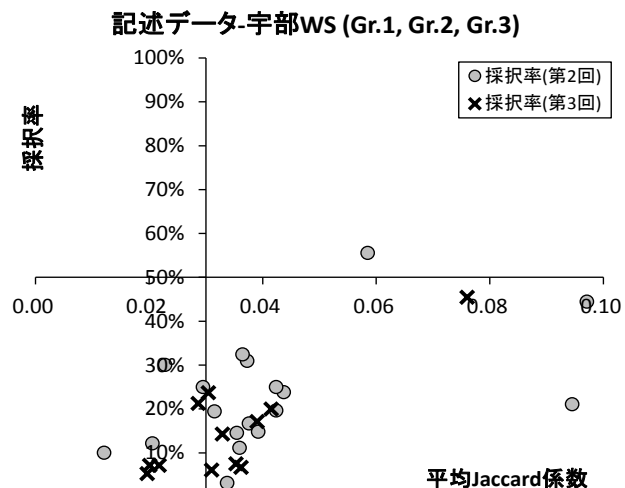


図 1 宇部 WS における記述データの分析結果

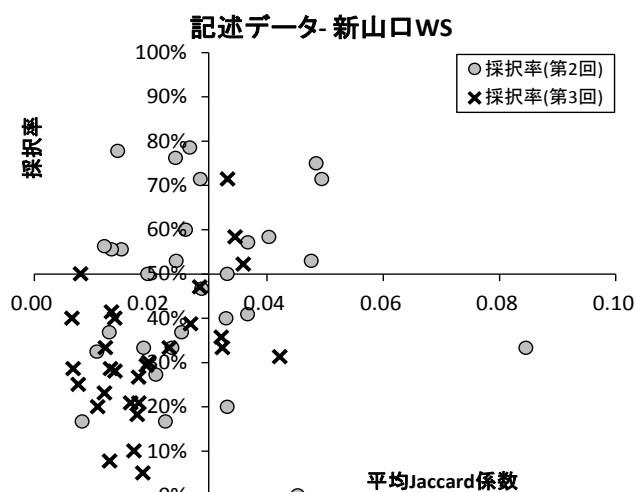


図 2 新山口 WS における記述データの分析結果

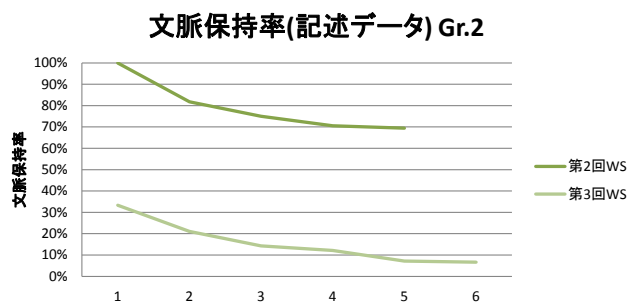


図 3 宇部 WS における文脈保持率（記述データ）

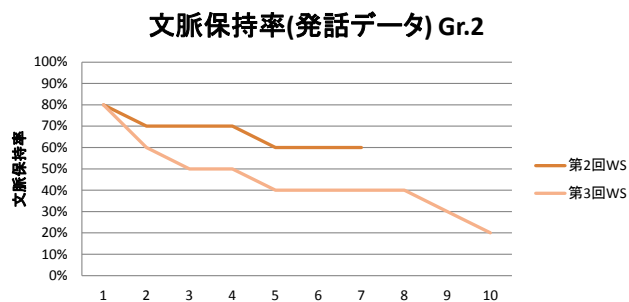


図 4 宇部 WS における文脈保持率（発話データ）